

実習の到達目標 温度センサの値が閾値を超えた時に、メール通知するシステムを作る。

事前準備のお願い

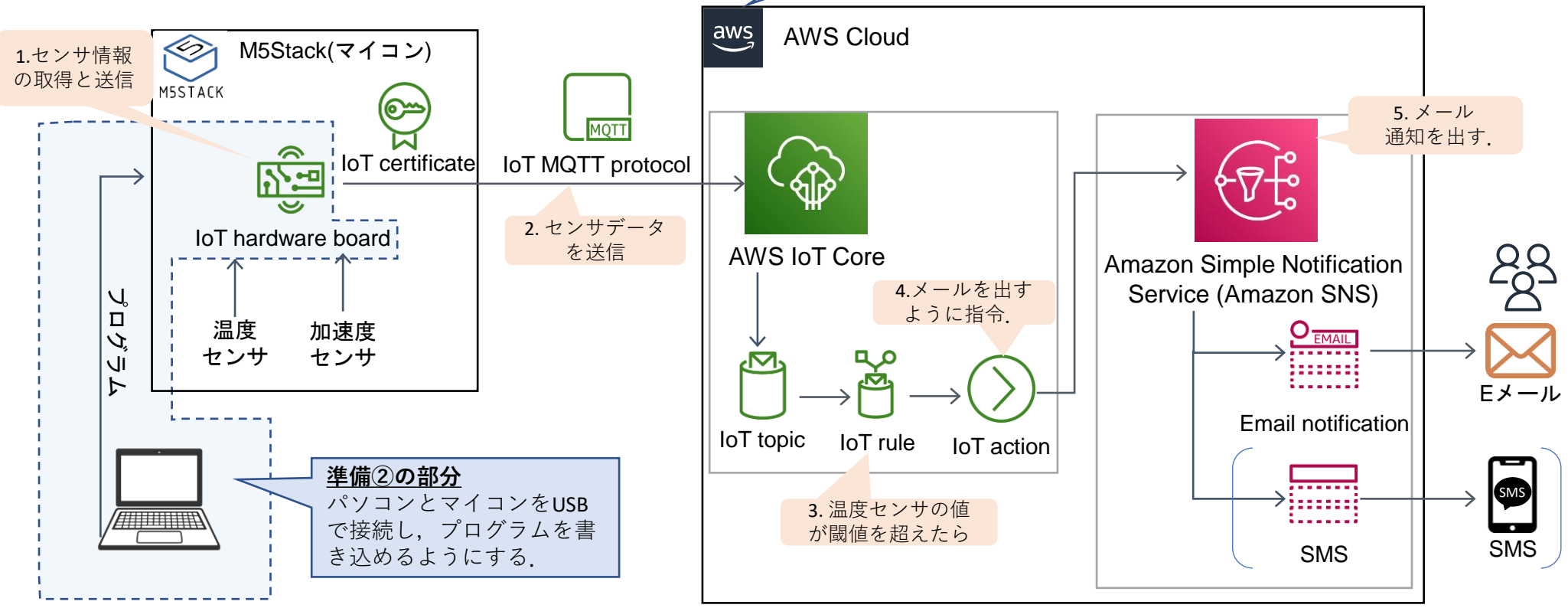
限られた実習時間でシステムを作るために、資料に従い次の2つの事前準備をお願いします。

準備①：今回は、AWS(Amazon Web Service)というクラウドサービスを利用するため、そのアカウント作成をお願いします。

準備②：クラウドに接続するためには、マイコン(M5Stack)にプログラムを書き込む必要があります。

そのため、プログラムを書き込むために、PCへ開発環境（プログラムを書き込むソフトウェア)のインストールと、簡単なサンプルプログラムの動作確認までをお願いします。

構築するシステム構成



【ご参考情報】 実習で利用するAWSサービス



AWS IoT Core

[AWS 無料利用枠](#)は、AWS IoT Core のお客様が AWS アカウントを作成した日から **12 か月間ご利用いただけます**。無料使用の有効期限が切れた場合、またはアプリケーション使用が以下の無料利用枠を超えた場合は、AWS IoT Core の料金レートをお支払いいただきます。

<https://aws.amazon.com/jp/iot-core/pricing/?nc=sn&loc=4>

- 無料枠
- 接続時間 2,250,000 分 = 1562.5時間 → 本実習は2時間程度
 - メッセージ 500,000 件 → 本実習では最大でも1000件程度
 - レジストリまたはデバイスシャドウのオペレーション 225,000 回 → 本実習では0回
 - トリガールール 250,000 件、実行アクション 250,000 件
→本実習では最大、ルールは 2 件、アクションは10件程度



Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS)

- 無料枠
- Email : 1,000件の通知 → 本実習では、多くて10件程度
- <https://aws.amazon.com/jp/sns/pricing/>

AWSサービス一覧：無料枠を確認できる

https://aws.amazon.com/jp/products/?hp=tile&so-exp=below&aws-products-all.sort-by=item.additionalFields.productNameLowercase&aws-products-all.sort-order=asc&awsf.re%3AInvent=*all&awsf.Free%20Tier%20Type=*all&awsf.tech-category=*all